

1. 単元名 17音の世界～俳句で楽しむ日本語～

2. 単元のねらい目標：

○日本の伝統的詩歌であり、世界的にも **HAIKU** として広く普及している俳句は、長い年月育まれてきた言葉の感性や文化としての言語の宝庫とも言える季語を土台にしており、「美しく豊かな日本語を育んでいく」柱として3年間を通じて系統的に扱う教材と考えている。主に以下のような点に教材としてその価値が考えられる。

・定型の詩としての力：各々の言葉の力の差異を超えて言葉の学習ができ、同時に定型という制約の中で言葉を精選することで言葉を磨き、豊かにしていくことができる。

・多様性を備えた文学：季語のとらえ方や句の持つ意味に共通性と多様性が存在し、鑑賞・表現の両面で多様なとらえ方ができるものである。個々の感性を生かし伸ばしていくことに適している。

また伝統文化の継承という点と四季の風物・風土といった自然環境への視点が育まれるという二点から **ESD** の視点からの意義も考えられる。

○以上の教材の価値を活かし、俳句という詩歌の力で生徒たちの言葉の力を豊かにしていくために単発的にでなく、繰り返しての学習が必要と考え、帯単元や小単元として3年間を通して系統的・継続的に学習していく入門期として、次のようなねらいで本単元を実施することとした。

①日本の伝統的詩歌を学ぶことで言葉の背後にある文化や日本語の感性に触れ、豊かな言語生活を育む。

②定型という制約の中で言葉の使い方・言葉の精選をすることで言葉の力を磨き日本語の力を高める。

③俳句という伝統的詩歌に親しむと同時に、季語に反映される自然と関わる生活環境へ目を向ける視点を育てる。

○学習指導要領との関連：〔知識及び技能〕(3) 我が国の言語文化に関する事項のイ〔思考力、判断力、表現力等〕「B 書くこと」の(1)ア

3. 一人ひとりを支える・生かす・伸ばす」視点から

帰国生徒11名の中でも現地での海外での生活・学習環境によって日本語の力には差異がある。論説文や小説の読解や普通の文章を書く場合は文章の量や語彙・構成といった点で言葉の力によるハードルが生じ、取り出しの個別指導が必要な生徒もいる。俳句は2のねらいで述べたような定型詩としての力があり、感性によるところが大きいので帰国生のこうした実態であっても、クラス全員で言葉の力の差異を超えたところで楽しく言葉を学び、力をつけていくことができ、帰国生に日本語の特有の言葉の豊かさを育んでいく上でも有効であるとの単元を設定した。また、俳句そのものが鑑賞・表現の両面に渡って感性や発想に多様な広がりを持つ文学であるため、帰国生の個々の多様な感性も生かす学習となり、言葉の力と感性を伸ばしていくことが期待されるものといえる。なお、毎回の授業の始めの5分間に生徒による季語の紹介タイムをとったり、夏休みに俳句をつくったりと少しずつ俳句になじんでくるようにしている。

4. 単元の展開（全3時間）

第一時 俳句に親しむ 「名句が迷句」をテーマに俳句のマッチングや虫食いゲーム等で俳句に慣れ、季語の働きや表現を意識する。

第二時 俳句を詠む 季語「小春日」の持つ特性を確認し、イメージマップを使って身の回りから見つけた句材から句をつくり投句する。
(本時)

第三時 句会を楽しむ 第二時でつくった俳句で句会を開く。一人一人が選者として選んだ句について「褒めコメント」の句評を述べる。

5. 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・日本語特有の季語の持つ意味や特性を解し、マッピングを使って連想されるものを考え季語のイメージを広げる。
- ・マッピングを参考に、小春日の季語で俳句をつくる。
- ・定型という制約の中で言葉の使い方・選び方の工夫をする。

(2) 本時の展開

	主な学習内容と活動	指導上の工夫と配慮 CD科との関連
課題設定	1 本時の学習の確認 本時の学習の流れと目標を知る。 季語「小春日」で俳句をつくろう	・生徒が言葉の力によって選べるよう幾種類かの歳時記の用意をする。
課題追及	2 季語の持つ意味とイメージを広げて俳句をつくる準備をする。 (1) 「小春日」という季語の持つ特性・(共通性)を確認する。 ・歳時記などで調べたことの確認。 ・例句で小春日の持つ意味の補足。 ・似たような季節の気象を表す季語／海外での小春日に該当するような言葉と比較し、その違いを考える。 (2)季語の意味や共通のイメージにつながったり、ふさわしいと感じられたりする場面やものを出し合って季語のイメージマップをつくる (マッピングの共有) 場面: 学校で (どんな時間・場所) / 家で/ 小春日にあうもの など 3、俳句をつくる。 ・イメージマップの中から小春日との組み合わせを考えて (取り合わせ) 俳句の形にする。 ・つくった句を短冊に書き提出する (投句)	・「小春日」の特性を示した言葉マップを示す。 * 「小春日」を体験したことがない生徒もいるが、言葉の力とイメージの想像でその事象をとらえるよう試みさせる。 ・「つかの間の春のような」「穏やかな晴天」「いつくしみ」等の点をおさえる。 【イメージマップの使用】 ・必要に応じて教師が材料となる例をあげる。 * 歳時記に説明されていることは句をつくるときにできるだけ使わないことも提示。(季語にその意味は含まれているので) ・教師が句をつくって例を示す。 ・一句の中で季語「小春日」の三通りの位置を確認する。 小春日和：6字(中七) 小春日：4字(上五) 小春：3字(下五) ・句会をやるので名前を書かず無記名で投句(提出)することを確認しておく。 ・全体に披講できるかたちにする。
省察	4. 本時のまとめと次回の予告 ・つくった句を(清記したもの)を見て、気に入った句の感想を言う。	・一つの季語から多様にイメージを広げて俳句を完成させたことの評価をしておく。 ・次回は本時の句で、句会を開く事を伝える。

(3)本時の評価

- ① 季語から連想されるものや生活の中のその季語に合うもの、ふさわしい出来事等を書きだして季語のイメージマップを作っている。
- ② 季語のイメージマップを使って、季語を生かした俳句をつくることができている。
- ③ 句作の際に言葉の使い方・選び方の工夫をする姿勢が見られる。

【参考・引用文献】

「楽しい俳句の授業アイデア50」(小山正見著 学事出版)「俳句の授業をたのしく深く」(西田拓郎・高木恵理著 東洋館出版)「子どもたちはワハハの俳句探偵団」(佐藤広也著・旬報社)「子どもと楽しむ俳句教室」(金子兜太監修 誠文堂新光社)「大人も読みたいこども歳時記」(長谷川權監修 小学館)月間国語教育研究(2018年1月号・9月号)